

用語の説明 *Glossary*

(1) 旅券・海外旅券下付表

旅券とは、パスポートのこと。日本の政府が、そのパスポートの持ち主が日本の国民であることを証明し、その人が安全に旅行や滞在ができるようにするための物。

この旅券を発給した時の記録を「海外（外国）旅券下付表」という。日本の外務省に保管されている。明治以降、旅券を取得した人の氏名・生年月日（年齢）・本籍地などが記されている。移民名簿としても使用されてきた。

(2) 計画移民

1952（昭和27）年8月石垣島の米原地区と、1954（昭和29）年6月ボリビアのサンタクルス州へ渡った移民のこと。第二次世界大戦後の沖縄は、海外からの引き揚げ者の帰国などで急激に人口が増えた。また、多くの土地を米軍基地に奪われ、農耕地が不足したため、1952年と1954年に、琉球政府が計画して移民を送り出した。

(3) 産業開発青年隊

産業開発青年隊は、国土開発のための建設技能者を育成する目的で、建設省により1951（昭和26）年に設立された。沖縄では、1959（昭和34）年4月、沖縄産業青年協会を設立し、その訓練施設として「沖縄産業青年隊」が開設された。ここで職業訓練を受けて、産業開発青年隊として移民した人も多い。特にブラジルへ渡った人たちは「移民青年隊」として活躍している。

(4) 一世・二世

日本で生まれ、外国へ渡航し、日本国籍のまま外国に定住した移民のことを、一世と言う。その外国で出生した子どものことを二世と呼び、以後三世・四世・五世と子孫がつづく。

(5) 呼び寄せ移民

海外の移民先に家族や親戚がいて、その地へ呼び寄せられる移民のこと。親が子を、兄が弟を、夫が妻を呼び寄せるなど、さまざまな形があった。

(6) 移民会社

明治20年代から大正初期にかけて、日本政府の許可により、移民の募集や送り出しや世話をした会社。帝国殖民合資会社、森岡移民会社、東洋拓殖株式会社などの移民会社の世話によって、沖縄から多くの移民がハワイ・北米・中南米へ送り出された。

(7) 琉球政府

第二次世界大戦後、日本の敗戦により、沖縄は、アメリカ軍が支配・管理することになった。そのようななかで、1952（昭和27）年、沖縄住民側の自治組織として、琉球政府が創立された。1972（昭和47）年の日本復帰まで20年間続いた。

(8) 契約移民

移民先における農場の耕地主と、前もって労働契約を結んで、渡航する移民のこと。日本では1868（明治元）年にハワイへ最初の契約移民153人が送られた。1885（明治18）年以降、再びサトウキビ耕地への契約移民で本格化した。沖縄からの契約移民は1899（明治32）年にハワイへ、1906（明治39）年からはペルーへ、1908（明治41）年からブラジルへと送られた。

(9) 自由移民

海外へ渡航するとき、前もって雇い主との契約などをしていない自由な移民のこと。その大部分は親族による呼び寄せ移民であった。戦後の移民はすべて個人の意志による自由移民の形をとっている。

(10) はいにちいみんぽう
排日移民法

1924（大正13）年に成立・施行されたアメリカ合衆国の新移民法。日本人移民の入国を禁止したので、排日移民法と言われる。戦後1952（昭和27）年6月に「移民帰化法」が成立し、アメリカ合衆国における東洋人にたいするすべての移民を禁止する法律は撤廃された。

(11) せんそうはなよめ
戦争花嫁

国際結婚の一種。1947（昭和22）年以後、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリアなどの軍関係者と結婚した日本人女性のこと。戦後、日本に駐留したアメリカ軍の関係者と結婚し、アメリカ合衆国へ渡った日本人の戦争花嫁は、1950年代末までに40,000人から50,000人いたと言われている。ハワイなどで軍人と結婚した場合、「軍人花嫁」とも呼ばれた。

(12) もあい
模合

沖縄や移民先の国（地域）で、広く庶民に親しまれている助け合いの貯金の仕組み。参加者が定期的に集まって、互いにお金を融通しあう。頼母子講とも言う。親睦を目的とするものから、商売資金を集めるものにまで用いられる。かつて移民先でおこなわれた模合は、郷里の家族への送金、家族呼び寄せのための費用、帰国のための旅費、子どもの学費、あるいは仕事のための資金など、さまざまな目的のために活用された。

(13) てきせいがいこくじん
敵性外国人

戦争をしている相手国の国民やその国の出身者のこと。攻撃・破壊・略奪・捕獲などの加害行為をなすとみなされ、さまざまな制限や迫害を受けた。

(14) れんたい
442連隊

第二次世界大戦時に日系人で編成された特殊部隊・442連隊戦闘団のこと。アメリカ合衆国史上最強の陸軍と言われた。軍史上最も多くの勲章を受け、日系人の地位向上に貢献した。ハワイ二世が志願して結成された第100大隊と同様、ヨーロッパ戦線で戦った。

(15) ^{しょかいかさとまるいみん}初回笠戸丸移民

1908（明治41）年、日本からブラジルへ渡った最初の移民のこと。かれらを輸送した船の名前にちなんで、笠戸丸移民と呼ばれる。この年、ブラジルのサントス港に移民が到着した日を記念して、海外移住事業団（のちの国際協力事業団）は、1966（昭和41）年から、6月18日を「海外移住の日」と定めている。

(16) ^{いみんそうしゅつせいげん}ブラジルへの移民送出制限

1908（明治41）年、笠戸丸に乗って日本移民とともにブラジルへ渡った沖縄移民は、契約した耕地での実績が悪かったり、耕地を離れたたりした。そこで、日本政府は、ウチナンチュがブラジルへ移民するのを制限した。

(17) ^{か くみ ま くみ}勝ち組・負け組

第二次世界大戦による日本の敗戦をめぐって、移民先地の日本人間で発生した対立。殺傷事件もあった。勝ち組は日本の敗戦を信じない者、負け組は敗戦を認める者であった。特にブラジルの日本人移民間での対立が激しく、沖縄移民は勝ち組が多かったと言われている。

(18) ^{でかせ}出稼ぎ・デカセギ

この用語は2つに使い分けられている。①日本人が、金を稼ぐために、郷里から国内の他府県や海外へ出て働くこと。②南米の日系人が、金を稼ぐために、外国人労働者として日本へ来ること。1980年代の後半から始まった。これは「デカセギ」と言い、世界的に通用する言葉となっている。

(19) ^{しゅうだんいみん}集団移民

個人で自由移民として渡航するのに対して、契約移民や計画移民など、集団で渡航する移民のこと。

(20) うるま熱病

1954（昭和29）年、ボリビアのジャングル地帯を開拓中の沖縄移民団に発生した熱病。当初原因不明であったが、のちに、蚊などを媒介とする新しいウィルスが原因であることが確認され、移民の耕地名「うるま」にちなんで病名がつけられた。死亡者が15人も出て開拓の犠牲となった。

(21) 入国管理法改正

正式名称を「出入国管理及び難民認定法」と言う。1990（平成2）年6月実施。海外在住の日系人の一世はもちろん、二世・三世まで、日本での労働者として滞在を認めるというもの。この入国管理法改正以後、出稼ぎ目的の南米からの日系人が急増し、日本の製造業などの労働者不足を補った。

(22) 一校一国運動

2006（平成18）年、沖縄県主催の第4回「世界のウチナーンチュ大会」の際、一校で一国を取り上げ、県内の小中高校の児童生徒が、海外に在住する世界のウチナーンチュとの交流等をして、異文化・多文化共生についての理解およびウチナーンチュネットワークの認識を深めた運動。2005（平成17）年10月から2007（平成19）年3月までに参加学校数101校、参加児童生徒数10,000人余りで、大きな成果をあげた。2011（平成23）年10月開催予定の第5回「世界のウチナーンチュ大会」に向けても、その取り組みを継承した「レッツスタディー！ワールドウチナーンチュ学校支援プログラム」が実施されている。